

# 第5回 ふくしま元気トーク まとめ



## 【開催概要】

日時	平成31年 2月17日(日) 午前10時30分～正午
テーマ	「市政ネットモニター制度に参加しての感想」など
場所	ザ・セレクトン福島 1階 ラ・セーヌ
出席者	市政ネットモニター 10名(ネットモニターから公募) (1) 渡部 司さん (5) 佐藤 嘉博さん (8) 齋藤 百合子さん (2) 星 大輔さん (6) 藤田 理穂さん (9) 上野 芳秀さん (3) 宮部 和昌さん (7) 結城 芳男さん (10) 山崎 賢一さん (4) 伊藤 春香さん (福島市) 木幡市長

## 【1 市長あいさつ】

本日は、本年度からスタートした市政ネットモニターの皆さんから参加者を募集いたしまして、開催させていただきました。参加者の皆さんの回答状況を事前に確認しましたところ、皆さん回答率は100%だということで、本当にありがとうございます。

本日は、市政に関心があって、いろいろな意見を届けたいという気持ちがあり、参加して下さっているとしますので、ネットモニターの感想や提案・改善点のほかに、市政に対して思っていることなどについて話していきましょう。

## 【2 市政ネットモニター制度】

### (1) 参加したきっかけ・感想について

- ①自分が住んでいる地域のことなので、自分の意見を積極的に届けたいと思い参加した。
- ②仕事一辺倒だったが、もっと市政に関わりたいと思い登録した。
- ③一市民として「こうしたら福島市はよくなるのではないか」という意見を伝えたいと思い登録した。
- ④ネットを活用したアンケートは気軽にできていい方法だと思う。
- ⑤ネットを通して自分の考えを伝えることができるのが素晴らしい。
- ⑥アンケートに回答することにより勉強になっている。
- ⑦一般的なアンケートの場合、適当に回答される方も結構多いのではないと思うが、ネットモニターのアンケート結果を見ると、皆さんは真剣に考えて回答されていると感じた。
- ⑧アンケートの中には調べないと回答できないテーマもあり、市政だよりをよく読むようになった。
- ⑨市政だよりはモニターになるまであまり見たことがなかったが、回答するためにホームページで調べるようになり、頻繁にアクセスするようになった。まだまだ分からないことが多いが、今まで自分が関心を持っていなかった分野も見erようになり、いい経験になっている。今回のように、市長や他のモニターの方たちと会って話ができることをとても楽しみにしてきた。
- ⑩12月アンケートのテーマである「火災警報器」は、定期的に点検が必要だということを知らなかったため、十何年前に設置して以来、初めて点検した。老人施設に勤めているが、火災で亡くなる高齢者のニュースをよく見るので、火災警報器の勉強会を提案した。アンケートを通して知ったことを自分の事業にも生かせるし、市に対する関心も高まり、参加してとても良かった。今後も継続したい。

- ⑪本制度について勤め先でも話すことがあるが、あまり浸透していない。アンケート結果を見せても、あまり関心を得られない。住んでいるまちなのにどうしてこんなに関心が薄いのだろうと思い、本制度やアンケート結果をどうやったら末端まで届けられるのだろうと考えている。
- ⑫アンケートのテーマは、興味の「ある」「なし」がはっきり分かれ、施設の手数料や下水道などのテーマは、どう回答していいか分からなかった。一方、「道の駅」活用のテーマについては、こうしたらいいのではという意見を回答できた。
- ⑬制度がスタートした当初、回答の依頼が来るまでアンケートのテーマが分からなかったので、事前に次回のテーマを教えてほしいと事務局に要望し、案内してもらうようにした。

<b>市長</b>	<p>ネットモニターを活用したアンケートのいいところは、非常に手軽にできることですね。緊急で実施が迫られる場合もあり得ますから、予定していたテーマが急きょ変更される場合もあることはご理解いただきたいと思います。紙ベースのアンケートと違い機動的に実施できることが、本制度のいいところだと考えています。</p> <p>福島でも火災が多くなっていますので、アンケートをきっかけに火災警報器について思い出してもらえたのは良かったです。ご意見にもあったとおり、確かに知らないと回答できないということもあり、アンケートを通して市民の皆さんに市政について知ってもらう機会になって、我々の業務をしっかりと見張っていただける機会にもなっているのはいいですね。</p>
-----------	--

**(2) ネットによる調査方法について**

- ①ネットアンケートはネットを使える一部の人に限られてしまい、一定の人たちの考えだけが反映される可能性がある。紙ベースのアンケートはコストがかかるが、多くの意見が集出来るので、使い分けが必要だと思う。紙ベースのアンケートは、福祉施設や児童相談所など、人が多く集まるところに置き、家庭で抱える問題などを集めるにもいい方法の一つではないか。
- ②プロバイダーの事情でパソコンが通信不能になり、回答できるか分からない状況に陥ったことがある。パソコンのメールをスマホに転送する設定にしていたため、結果的にはスマホから回答できたが、ネットならではの弱点も感じた。

<b>市長</b>	<p>「ネットモニター」はネットリテラシーがある集団であって、ネットを使えないお年寄りなどの意見は入っていない点は、私たちはしっかり考慮していく必要はあります。</p> <p>アンケートは、テーマによって様々な手法で行っています。例えば総合計画のアンケートでは市内の3千人を対象に、子育ての計画を策定するためには子育て世代を対象に行っています。紙ベースのアンケートは、かなりのお金と時間を要します。必要な内容であれば実施しますが、一方でネットモニター制度は費用をかけずにスピーディーに実施できることがメリットです。ネットモニターはネットを使える方なので、若い人が多い構成になりやすい。一方で、紙ベースで実施する場合は、人口の年齢構成に併せて対象者を抽出しますが、結局回答してくださるのは高齢の方が多くて、若い世代は少ないんです。そういう意味では、両方やることでバランスが取れるとも言えます。我々としてはその点を認識した上で、実施しています。</p>
-----------	--

### (3) 調査結果の活用について

- ①アンケートの実施後が一番重要である。回答をどうまとめ、どう実行し、またそれをどう知らせたかということが大切。それを知らされてこそ、モニターになった成果が自分に返ってくると考えている。それが分からないと結局「言っぱなし」「答えっぱなし」、回答をもらった方も「もらっぱなし」になり、それにより市への評価も変わってくると思う。もちろん、すべて回答したとおりになるというものではないが、モニター募集にあたっては、どう活かされるのかの説明が足りないと感じている。

市長	<p>アンケート結果については、ネットモニターの性質上、一定の傾向はどうしても出てきますので、それを踏まえた上で一つの判断材料として使わせていただきたいと思います。そのため「こういう結果だったからこうしました」とは言いづらいですが、「最終的にはこうなりました」ということは、市ホームページなどでできるだけオープンにしています。</p> <p>取り組みや実施結果をどうやって形にしていくかは、市役所内はどうしても担当部局内で落ち着いてしまう面があると思います。単に「ホームページに掲載しています」ではなく、みんなで共有するために「どうやったら届くか」という視点で取り組まなければいけません。フィードバックがない（足りない）ことは、今年の改善点だと思っています。</p> <p>ネットモニターの方にどのようにフィードバックしていくかについては、これから考えていきたいと思っています。中心市街地に関する発表では、従来行っていない方式ですが、市民の代表である市議会で発表しようと思ひ、昨年12月議会の前に発表し、多くの媒体に掲載していただきました。せめてネットモニターの皆さんには、私が発表したことをメールでお知らせして、すぐに見てもらえるような工夫は当然あって然るべきだったかなと思います。</p>
----	--

### (4) 本制度に対する提案について

- ①モニターが普段思っていることを伝えられる機会にもなるので、モニターからアンケートテーマを募集してみてもどうか。
- ②町内会をテーマに実施して欲しいです。今、町内会活動をやる方がいなくなってきているので、ネットモニターが町内会に対しどのような考えを持っているかを聞きたい。町内会に入っていないと市政だよりをもらえない地区もあり、市政だよりが届かない人は市が何をやっているか全然分からないと思う。
- ③福島市には、季節ごとの楽しみやイベントがあるので、「今回のお祭りは〇〇だった」、「花見山のバスが〇〇だった」、「駅前に〇〇の店をつくった方がいい」など、テーマに関係なく意見を言えるコーナーがあれば、もっと自由に意見を言えて楽しくなる。
- ④回答結果について、モニターの方たちともっと掘り下げて話をしてみたいと思うようになった。年に何回か集まり、一般の方にも入ってもらって、アンケート結果を共有する機会があると、もっと盛り上がると思う。若い人のまちづくりに対する話を聞くのも参考になる。
- ⑤ネット以外にも意見を伝えられる機会があればよい。対談形式や紙ベースのアンケートも年に1回程度あってもいい。
- ⑥今年度の年間テーマを見て、なぜこんなに縦割りなのかと思う。7月は下水道、1月は上水道をテーマにそれぞれ実施しているが、市民としては上下水道って表裏一体なので、一緒に聞かれる方が意見を出しやすいし、新しい考えが集められると思う。もっと横断的に実施して欲しい。

<b>市長</b>	<p>アンケート調査のテーマは、まずは緊急度の高い調査を優先させていただきますが、モニターの皆さんからテーマを募集するのは、実現できない提案ではありませんので、今後検討してもよいかもしれません。</p> <p>町内会をテーマとしたアンケート調査を実施することについては、ネットモニターの皆さんは、傾向的に町内会加入率は低い可能性はありますので、加入状況を踏まえ、町会活動がどれくらい知られているのかなどの実態をお聞きしてみるのもいいかもしれません。</p> <p>ネットアンケート以外でご意見をお聴きする機会についてですが、市民の皆さんからのご意見は市長直通便など様々な方法でかなり届いています。市民の皆さんの声に応えることはもちろん重要ですが、同時に私たちは仕事を前に進めなければなりません。ネットモニターという制度で皆さんにお願いしておりますのも、様々な業務を進めていく際、市民の皆さんのご意見や傾向をお聴きして、できるだけ多くの方にご理解を得られる内容にしていくためです。市民の皆さんの分だけそれぞれご意見があり、一方で私たちにも処理能力があります。特にフリー形式のご意見は統計処理できないところがありますので、市にぜひ届けたいというご意見は別の広聴ツールにより送っていただきたいと思います。しかしながら、ネットモニターの皆さんには特別なご協力をいただいておりますので、今回のような機会を設けさせていただきました。我々もできるだけ皆さんのご意見にお応えする体制を充実させたいと思っておりますが、マンパワーが関係することはご理解いただきたいと思っております。</p> <p>縦割り行政の件については、これでもだいぶ改善されてきてはいます。例えば、子育て支援は、こども未来部だけで進めてしまう傾向がありますが、親からすれば教育分野も子育て支援に含まれますので、横断的にアンケートを実施させたこともあります。担当も各部署とのやり取りの中だけで考えているので、そこは総合的に工夫していく必要があります。</p>
-----------	--

### 【3 フリーテーマ】

#### (1) 町内会について

- ①町内会が何をしているのか分からない方も多いが、どこに誰が住んでいるかなど班ごとに把握しているので、災害時などは声を掛けやすい。市役所職員ですべてのことをやるのは無理なので、近所の住人の班で動けるという点で、町内会は必要だと思う。
- ②これまでは町内会未加入者は、ごみ出しを適当にやっていたが、町内会でごみ出しの看板を作って設置したところ、皆さんごみ出しをきちんとやるようになった。町会の役割はやっぱり大切だ。

<b>市長</b>	<p>福島市は他の地域に比べて町内会が非常に浸透して、役割はとて大きいと感じています。そのため、本市の町内会関係の予算は非常に大きいです。</p> <p>また、本市には各地区に学習センターがありますが、皆さんあるのが当たり前だと思いませんか。実は地区ごとに学習センターを設置している地域はなかなかありませんので、それゆえ本市の生涯学習の予算も著しく大きい状況です。その分、学校施設は非常にみすばらしい状態で、最近まで学校の耐震化も不十分でした。本市には各地区に自治振興協議会という組織があって、地区ごとに要望や意見を聴いているのですが、ある意味そちらに偏っていた傾向があったのではと思っています。</p>
-----------	--

## (2) ごみ、環境について

- ①以前住んでいた市では、10枚入りの指定ごみ袋を400円で購入しなくてはいけなかったが、福島市は指定ごみ袋がないのでごみを出しやすい。
- ②これまで5つの市に住んできたが、いずれの市もごみ袋は有料だった。
- ③カラスに優しいまちにはなって欲しくない。転勤族で各地見てきたが、特に福島市はカラスがごみ捨て場を荒らして、道路にごみが散乱している状況が多いと思う。長野県は全国で最もごみが少なく、そして長寿県ということなので、福島市もそんな風になればいい。
- ④資源ごみの回収頻度が少ないと思う。燃えるごみは1週間に2回なのに、資源ごみは2週間に1回である。そのため資源ごみも燃えるごみに入れてしまい、資源化がなかなか進まないのではないかと。指定ごみ袋がないこともあって、資源ごみも燃えるごみに入れちゃえという気持ちが働くのではないかと。

**市長** 福島市はごみの量が多いので、ごみを「出しやすい」ということは、本当は問題です。有料の指定ごみ袋については、特に県外から転入された方にとっては当たり前の感覚ですが、福島市は無料なものが多すぎると思います。福島市廃棄物減量等推進審議会からは、平成33年度までにごみの量を20パーセント削減できなければ、ごみ袋を有料化すべきという提言をいただいております。今「ごみ減量大作戦」を展開していくところです。

そもそも福島市はそういった市民負担をあまり求めてこなかったまちとも言えます。それはつまり市民負担を求めない分だけ、そこに税金を投入するということですから、他で税金が投入できずサービスが低下するという部分も出てきます。そういったことから、新しい斎場の使用料は有料化にさせていただきました。

指定ごみ袋の導入もいいですが、ごみ出しについてはまずはマナーではないでしょうか。カラスの駆除はなかなかできませんが、増えないようにする工夫は必要です。

## (3) 観光・産業振興などについて

- ①中央道が完成したので、大笹生に道の駅が出来たら、高速道路までアクセスしやすいようにして、ぜひ観光に活かしていただきたい。くだものを切る機械を作っている人もいるので、そういった機械も活用して、観光客に季節ごとのくだものを口にしていきたい。
- ②県外の人からすると、モモ以外で有名な福島のかくだものが浮かばない。でも実際に住んでみて、カキなども美味しいことが分かった。「住まないといけない良さ」を住んでいない人に伝える施策が必要だ。駅前のパンフレットの多くは、モモはPRされているが、カキなどほかのかくだものについてはPRされている記憶がない。県外に対して、日本酒・モモに並ぶくらい情報発信が必要だと思う。
- ③「ももりん」の「りん」がリンゴの「リン」だとは知らなかった。両手にモモとリンゴを持たせるくらい、視覚的に分かりやすいPRをしていかないと伝わらないと思う。
- ④県外の知り合いが福島に来ることが結構あるが、福島の良いものなどの情報は、事前に調べてもあまり出てこないし、実際に来てみないと分からないと言われる。もっと事前に情報を得られれば、もっと福島を知りたくなるし来たくなるので、市のホームページなどでもっと紹介してほしい。

**市長** 大笹生の道の駅については、一番新しい道の駅になりますので、それなりに差別化したものをつくりたいと、いろいろ考えているところです。

福島市キャラクター「ももりん」はモモとリンゴをシンボリックにしていますが、福島の

皆さんは、平均を少し上回るようなところでやっていらっしゃると思いますので、ブランドづくりがどうも上手ではありません。

今は情報が溢れており、ブランドづくりをしないまま情報発信しても埋もれてしまいますから、その点については今後工夫をしてやっていきたいと考えています。「福島らしさ」をPRできるお土産などについては、くだものの活用方法を探る研究会をつくっているいろいろな話を聞いているところです。

#### (4) 中心市街地の活性化について

- ① マスターズで行っている講演について、昨年から公会堂が使えないため、県文化センターで開催している。参加者にはバスがなくて行きづらと言われており、早く復旧して欲しい。中心市街地に集客施設があれば周辺も潤う。福島交通のバスターミナルがあった時代は、中心市街地に人がたくさん集まって活性していた。今は郊外に集中してしまい、人の流れが変わってしまった。
- ② 昔街なかを走っていた路面電車を復活させている地域が結構あるので、福島市でも検討して欲しい。
- ③ 市街地に住んでいるが、買い物する場所が少ない。また道路状態が悪い。パセオ通りは石畳でボコボコしていて通りづらい。駅前には、歩道を広くしたことで歩行者は歩きやすくなったが、道路が狭くなって車が走りづらくなった。
- ④ 福島駅東口・西口ともに、一般車両の乗り入れがしづらい。仕事でよくお客さんを福島駅西口に送迎することが多いが、非常に使いづらい。

**市長** 中心市街地の買い物については、今までは中心市街地に人がいないため、買い物する場所も減ってしまいました。しかし最近マンションなどが増え、また中心市街地活性化の議論も始まりましたから、商売が成り立つ状況が見込めれば、中心市街地に出店する民間事業者が出てくると思いますので、すぐに解消とはいきませんが、楽観的に構えています。

福島駅西口のロータリーについては、今の状況でどれだけの利用ができるか検討しなくてはいいけません。スペースを新たにつくるということであれば、そう簡単にはできないと思います。もしやるとすれば、東口自体をもう少し駅の中に入れることにより、その前のスペースを広げる方法などが考えられますが、膨大な予算が必要です。

#### (5) 市ホームページについて

**市長** 市のホームページは見てみていかがですか。私的にはいろいろ課題があると感じており、いろいろ直しているところです。例えばこれまで市のホームページは、些細な修正でも更新すると、新着情報に載っていました。そのため、大切な情報が埋もれて分からない状態になっていました。ホームページというのは関心がある方がアクセスをされるので、「開かれた市政」への姿勢が問われているものだと思います。私自身は結構厳しく見っていますが、ホームページについても何かご意見があればぜひおっしゃってください。

- ① 市政だよりをホームページ上で読むとき、結果を探すのが大変である。市の様々な募集も探さないとなかなか出てこない。市政だよりの記事をクリックして、対象のページにアクセスできたらいい。市政ネットモニターの募集も、新着情報に掲載されていれば簡単に見つかると思う。

**市長** 職員も単に市のホームページに掲載すればいいということではなくて、どうすれば相手に届くのか、あるいは相手が動いてくれるかまで考えて掲載することが大切だと思うので、その点はこれから取り組んでいきたいと思います。

市政だよりはPDFファイルで市ホームページに掲載されていますので、例えばクリックすればホームページにアクセスできる仕様にする、QRコードを掲載するなど、工夫の仕方はあると思います。

## (6) その他

- ①市で進めている公共施設のトイレの洋式化について、勤めている施設も対象になっていて、早急に洋式化してもらった。古い和式トイレで個室スペースがとても狭かったので、工事前の現場確認時、市担当者に個室スペースの拡大について相談したら、「トイレを洋式化すればいいので」と言われた。洋式化により以前よりお年寄りの体に負担がないことは間違いないが、お年寄りにはたださえ衣服の着脱が大変なので、皆さん狭いスペースではうまく着脱できず、個室の外で着脱している状況である。3年計画で進めているなら、今後着手するトイレについては単に洋式化するのではなく、スペースが狭い場合は3つある個室を2つに減らし、スペースを拡大するなどの配慮をしながら進めてほしい。
- ②昨年新聞記事で、学校図書館には必ず司書が配置されているわけではないので、パソコンでやりとりしたらどうかという市長のインタビューを読んだ。しかし、現在の市内の学校図書館には、PTAなどで購入した場合を除き、予算が確保できないという理由からパソコンは配置されていない。
- ③市には、支所や幼稚園の先生、保育園の保育士にも臨時職員がいるが、雇用できる期間が決まっていると聞いた。特に資格が必要な専門職は、働いた経験を生かしていく仕事だと思うので、雇用期間を改善できるなら、安定して長期間勤められる環境をつくって欲しい。
- ④福島県は実は和算関係で日本一のものがある(※)。和算については一昨年の市政だよりで連載もされたが、市内には立子山の篠葉沢稲荷神社の「算額」など、世界的に有名な「算額」もたくさんあり、外国の数学者も来ていると聞いている。和算やパイロットの室屋義秀さんなど、福島市にしかないものを再確認して、発信して欲しい。※福島県は現存する算額の数(99面)が日本一。
- ⑤福島ユナイテッドの競技場の整備と駅からの動線を考えるべきである。もう少しきれいに整備され、交通の便もよくなれば、若い人ももっと観戦すると思う。

**市長** トイレの洋式化については、単に洋式化しているわけではなく、例えば観光客が多い民家園のように、既存のトイレは狭すぎるので洋式化は断念し、別につくることにした施設もあります。良いご意見をいただきましたので、現場に伝えたいと思います。

学校図書館のパソコンについては、まず学校自体が遅れています。新年度からはタブレット・コンピューター教育に取り組まなくてはいけないので、これから本格的に稼働しますが、その中で図書館についても検討してもらいたいと考えています。

確かに「福島らしさ」を追求し、何を進めていくかの議論はしていかなければなりません。例えば「再生可能エネルギー」の分野では、太陽光発電はどこでも取り組んでおり、福島市は日照時間から言えば、特にアドバンテージがあるわけではありません。その点では、本市の高低差がある土地を活かせる小水力発電は、とても「福島らしい」のではないかと思います。そういった「福島らしさ」を前面に出せるように取り組んでいきたいと思います。

## 【参加者の感想】

- ①開催頻度を多くして欲しいです。
- ②今回は話題がいろいろな分野にわたり、内容が“広く薄く”な話し合いになってしまったように思えた。もう少し内容を絞ってはどうか。今回のような機会があれば、ぜひまた参加してみたい。
- ③テーマを設けて、フリートークにして議論した方が、意義深いと思う。
- ④今回のようなフリーな形も良いが、テーマを絞った話し合いにも参加したい。
- ⑤教育問題、不登校・教育確保、市民協働のあり方をテーマに開催して欲しい。
- ⑥市民が市政に参加できる良い企画だと思ったが、参加者同士のフリートークがなく、少し残念だった。フリートークの時間は必要だと感じた。テーマによっては、市長ではなく部長が参加するのもいいと思う。
- ⑦幅広く市民との意見交換を行って、直接膝をまじえた意見交換会の開催等、市政を活性化していて、一市民として頼もしく感じた。市民がどれだけついてゆかが今後の課題である。行政と市民が両輪で進めれば、活性化のある福島市になると思う。このような対話できる機会を是非企画お願いしたい。
- ⑧もう少し発言時間を取ってほしい。進め方が市長が聞きたいことに偏っていた気がする。参加者が発言できる機会が少なかった。市長は自身を政治家と言っていたが、私には官僚そのものに見えた。
- ⑨市長をはじめ市担当者との意見交換出来る機会がもっとあればいいと思う。

